

医療機器産業の視点から考える 「経済財政運営と改革の基本方針2019」

医療機器政策調査研究所 主任研究員 **山本 達郎**

1. はじめに

経済再生と財政健全化を目指す「経済財政運営と改革の基本方針2019」(骨太の方針)等、今後の政策展開を示す「政府4計画」が2019年6月21日に閣議決定された。

本稿では、特に「経済財政運営と改革の基本方針2019」について、「経済財政諮問会議」、「未来投資会議」、「統合イノベーション戦略推進会議」、「デジタル・ガバメント閣僚会議」の資料を読み解き、医療機器産業の視点から内容を検討し、将来に向けての課題を考える。

2. 「経済財政運営と改革の基本方針 2019」について

今まで、「経済財政運営と改革の基本方針」では、一貫して経済成長と財政の健全化を主眼に各年で重点政策を定め、政策方針・計画を明らかにしてきた。令和元年となる2019年は、経済再生と財政健全化を達成するために我が国が目指す姿として、「Society 5.0の実現」が示されてから3年目となるが、さらに「Society5.0の実現」が強調されている。

「Society 5.0の実現」が示された年度の重点政策を振り返ると、2017年は、「働き方改革による成長と分配の好循環の実現」、「人材への投資による生産性の向上」が前面に出され、2018年は、財政健全化目標の訂正を行い、団塊世代が75歳に入り始める2022年までを「基盤強化期間」と位置付け、社会保障の自然増の抑制等を重点政策とした(図1)。

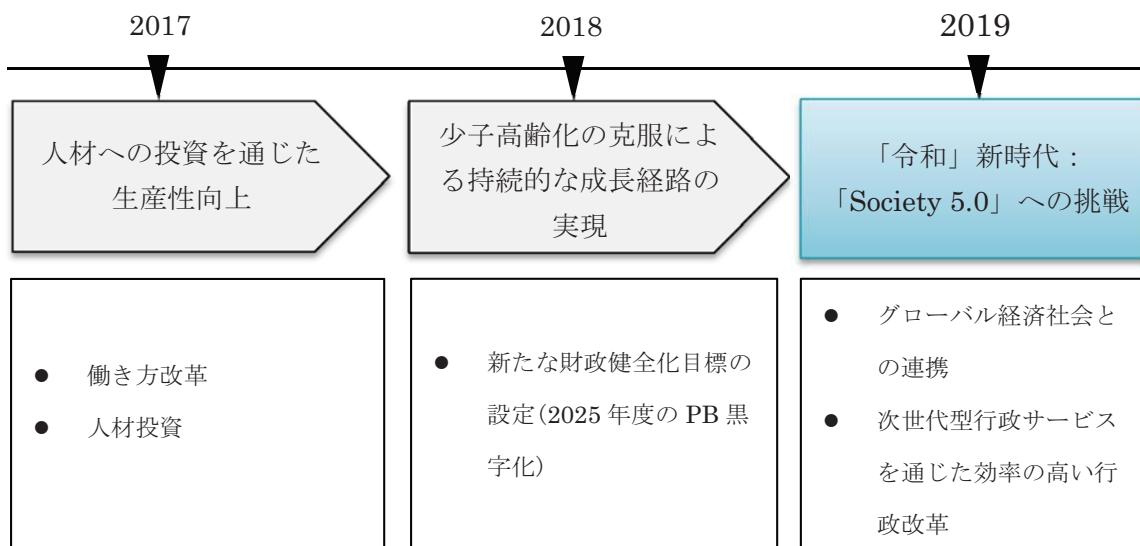


図1. 経済財政運営と改革の基本方針の変遷(2017年～2019年)

~~~~~

「経済財政運営と改革の基本方針2019」は、日本経済の現状について、デフレでない状況を作り出し回復を持続できていると述べ日本経済が直面する最大の課題として人口減少及び少子高齢化の急速な進展を挙げ、今後の経済財政運営では、財政健全化目標を達成するために①潜在成長率の引上げによる成長力の強化、②成長と分配の好循環の拡大、③誰もが活躍でき、安心して暮らせる社会づくりを重視するとしている。

下図(図2)でわかるように、グローバルな環境変化を強く意識することを前提にして「Society 5.0時代にふさわしい仕組みづくり」と「経済再生と財政健全化の好循環」の両面から取り組むとしており、「Society 5.0時代にふさわしい仕組みづくり」に関する事項は、「未来投資会議」がとりまとめた「成長戦略実行計画」を強力に推進するとし、「経済再生と財政健全化の好循環」に関する事項は、第3章の冒頭で、「経済再生なくして財政健全化なし」との基本方針の下、「新経済・財政再生計画」を着実に推進するとしている。

| 経済財政運営と改革の基本方針2019 ~「令和」新時代:「Society 5.0」への挑戦~                                                                                                                                                                           |                                  |                                                                                                                                                                                            |                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| 直面する課題                                                                                                                                                                                                                   | 人口減少・少子高齢化の進行                    |                                                                                                                                                                                            |                          |
|                                                                                                                                                                                                                          | デジタル化と第4次産業革命の進展<br>通商問題・保護主義の台頭 | 生産性と成長力の伸び悩み<br>社会保障と財政の持続可能性                                                                                                                                                              | 地方経済の活性化<br>海外経済の下方リスク   |
| 経済財政運営の<br>基本認識                                                                                                                                                                                                          | (1)潜在成長率の引上げによる成長力の強化            | (2)成長と分配の好循環の拡大                                                                                                                                                                            | (3)誰もが活躍でき、安心して暮らせる社会づくり |
| グローバルな環境変化を強く意識                                                                                                                                                                                                          |                                  |                                                                                                                                                                                            |                          |
| <b>新たな時代への挑戦:「Society 5.0」実現の加速</b>                                                                                                                                                                                      |                                  |                                                                                                                                                                                            |                          |
| - 第4次産業革命による高度な経済、便利で豊かな生活が送れる社会の実現<br>- 人生100年時代の到来を見据え、誰もがいつになっても活躍できる社会の構築                                                                                                                                            |                                  |                                                                                                                                                                                            |                          |
| <b>Society 5.0時代にふさわしい仕組みづくり</b>                                                                                                                                                                                         |                                  | <b>経済再生と財政健全化の好循環</b>                                                                                                                                                                      |                          |
| <b>成長戦略実行計画をはじめとする成長力の強化</b>                                                                                                                                                                                             |                                  | <b>新経済・財政再生計画の着実な推進</b>                                                                                                                                                                    |                          |
| ◆デジタル市場ルール整備、フィンテック・金融、モビリティ、コポレート・ガバナンス<br>◆全世代型社会保障への改革: 高齢者雇用、中途・経験者採用促進、疾病・介護予防<br>◆人口減少下での地方施策強化: 乗合バス・地域銀行経営統合・共同経営、地方への人材供給                                                                                       |                                  | ◆「経済再生なくして財政健全化なし」。600兆円経済と2025年度財政健全化目標の達成<br>◆基盤強化期間（2019年度～21年度）の「目安」に沿った予算編成                                                                                                           |                          |
| <b>人づくり革命、働き方改革、所得向上策の推進</b>                                                                                                                                                                                             |                                  | <b>次世代型行政サービスを通じた効率と質の高い行政財政改革</b>                                                                                                                                                         |                          |
| ◆人づくり革命: 幼児・高等教育無償化、大学改革、リカレント教育<br>◆働き方改革: 長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方の実現、同一労働同一賃金<br>◆所得向上策: 就職氷河期世代支援プログラム、最低賃金引上げ                                                                                                             |                                  | ◆デジタル・ガバメント・国主導の情報システムデータ標準化、書類・対面手続簡素化、自治体のデジタル化<br>◆政府情報システムに関するプロジェクト管理の開始・拡大、予算の一括要求・計上                                                                                                |                          |
| <b>地方創生の推進</b>                                                                                                                                                                                                           |                                  | <b>主要分野ごとの改革の取組</b>                                                                                                                                                                        |                          |
| ◆東京一極集中の是正、地方への新たな人の流れの創出<br>◆観光・農林水産業活性化、海外活力取込み、中小・小規模事業者支援                                                                                                                                                            |                                  | ◆社会保障: 予防・重症化予防・健康づくりの推進、年金制度改革、医療・介護制度改革<br>◆社会資本整備・スマート化の実現、重点プロジェクトと生産性向上、PPP/PFI、公的ストックの適正化<br>◆地方行財政: 交付税など財政制度改革、公営企業・第三セクター・経営改革、見える化・横展開<br>◆文教・科学技術: PDCAサイクルの徹底、EBPM推進による予算の質の向上 |                          |
| <b>グローバル経済社会との連携</b>                                                                                                                                                                                                     |                                  | <b>歳出改革等に向けた取組の加速・拡大</b>                                                                                                                                                                   |                          |
| ◆G20における持続的成長へのコミットメント、TPP等の21世紀型ルールの国際標準化<br>◆データの越境流通等のルール・枠組み、SDGsを中心とした環境・地球規模課題への貢献                                                                                                                                 |                                  | ◆「見える化」の徹底・拡大や先進・優良事例の全国展開、インセンティブ改革                                                                                                                                                       |                          |
| <b>当面の経済財政運営と令和2年度予算編成に向けた考え方</b>                                                                                                                                                                                        |                                  | <b>デフレ脱却・経済再生最優先の基本方針。あらゆる政策を総動員し、経済運営に万全を期す</b>                                                                                                                                           |                          |
| ◆2019年度は、臨時・特別の措置等により、消費税率引上げ前後の需要変動を平準化、経済の回復基調に影響を及ぼさないように取り組む<br>◆キャッシュレス・消費者還元事業、プレミアム付商品券事業、耐久消費財（自動車・住宅）の税制・予算措置の実施により、消費の喚起・下支え<br>◆来年度予算編成においても、適切な規模の臨時・特別の措置を講ずる。海外経済の下方リスクに十分目配りし、リスクが顕在化する場合には、機動的な政策を躊躇なく実行 |                                  |                                                                                                                                                                                            |                          |

図2. 経済財政運営と改革の基本方針2019の概要

[https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2019/summary\\_ja.pdf](https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2019/summary_ja.pdf)

### 3. 医療・健康・介護分野について

医療機器産業にとって関心が高い医療・健康・介護分野に関わる事項は、「経済財政運営と改革の基本方針2019」の広範囲に渡って記載されている(表1)。特に、「経済再生と財政健全化の好循環」の「社会保障」において、医療・健康・介護に関わる事項が多く述べられている。

社会保障に係わる政策の要点は、社会保障財政を持続可能なものにするために財源増と支出の抑制の両立を図ることであり、財源増のために全世代型社会保障への改革として70歳まで

の就業機会確保や健康寿命の延伸、疾病・介護の予防、重症化予防、健康づくりの推進が示され、支出の抑制のための政策としては医療・介護制度改革によって2040年に向けての医療・福祉分野サービスの生産性向上、総合的な医療供給体制改革、アウトカム指標による評価、国保の法定外繰入解消、都道府県内保険料水準の統一、薬価制度の抜本改革、調剤報酬の評価を行うとしている。

表1. 「経済財政運営と改革の基本方針2019」の医療・健康・介護分野に関連する記載の抜粋

| Society 5.0時代にふさわしい仕組みづくり |                                                                                                                                                            | 経済再生と財政健全化の好循環            |                                                                                                                                                   |
|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 成長戦略実行計画をはじめとする成長力強化      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル市場のルール整備</li> <li>・スマート公共サービス</li> <li>・70歳までの就業機会確保</li> <li>・中途採用・経験者採用の促進</li> <li>・疾病・介護の予防</li> </ul>     | 新経済・財政再生計画の着実な推進          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障改革による保険料負担の伸びを抑制・労働参加の促進</li> <li>・人的投資をはじめとする民間投資の喚起</li> <li>・規制・制度改革を通じた公的分野への民間参入・官民連携</li> </ul> |
| 人づくり革命、働き方改革、所得向上策の推進     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学改革等</li> <li>・リカレント教育</li> <li>・女性活躍の推進</li> <li>・働き方改革の推進</li> <li>・就職氷河期世代支援プログラム</li> <li>・最低賃金引上げ</li> </ul> | 次世代型行政サービスを通じた効率と質の高い行政改革 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル・ガバメントによる行政効率化</li> <li>・EPBMをはじめとする行政改革の推進</li> </ul>                                                |
| 地方創世の推進                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京一極集中の是正、地方への新たな人の流れの創出</li> <li>・中堅・中小企業・小規模事業者への支援</li> <li>・地方分権改革の推進等</li> </ul>                              | 主要分野ごとの改革の取り組み            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障</li> <li>・社会资本整備</li> <li>・文教・科学技術</li> </ul>                                                        |
| グローバル社会との連携               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際的なデータ駆動型経済拡大に向けたデータの越境流通等のルール・枠組み</li> </ul>                                                                     | 歳出改革等に向けた取組の加速・拡大         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「見える化」の徹底・拡大</li> <li>・先進・優良事例の全国展開</li> </ul>                                                            |

[https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2019/2019\\_basicpolicies\\_ja.pdf](https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2019/2019_basicpolicies_ja.pdf)

#### 4. 医療機器産業の視点から考える課題と今後

##### 4.1. デジタル市場のルール整備

我が国は、人口減少や少子高齢化など、様々な社会課題に直面する「課題先進国」である。医療・健康・介護などの現場から得られた豊富なリアルデータによって、課題を精緻に「見える化」し、データと革新的技術の活用によって社会課題の解決を図り、新たな付加価値の創造をもたらすチャンスを迎えている。

昨今、「成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日)」に指摘があるように、業務・組織毎のレガシーシステムが、疎結合の設計思想でオープンなクラウド上の様々なサービスがAPI経由で繋がり、相互にデータ連携して処理され、かつ、それがAIにより自動化される仕組みへとパラダイムシフトしつつある。このパラダイムシフトによって、データ連携による新たな付加

価値の創出を行い易くなっている。

このようなデータ連携をし易い基盤を整えるために、「統合イノベーション戦略2019」では、「分野間」及び「分野ごと」のデータ連携基盤のアーキテクチャ設計を推進し、2022年までに、「分野ごと」のデータ連携基盤との相互運用性を確保しつつ、「分野間」のデータ連携基盤を本格稼働させるとしている。特に、「パーソナルデータ分野」等における相互運用性確保に向けたアーキテクチャの構築に先行的に取り組むとしている。

この「パーソナルデータ分野」では、「成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日)」において、個人情報の望ましくない利用の防止措置などを講じる一方で、活用が必ずしも進んでいない匿名加工情報について、より利活用が進む仕組みへ見直すなどを検討し、2020年の通常国会へ個人情報保護法の改正案の提出を図るとしている。

また、AIによる自動化に関しては、「AI戦略2019」において、「医療・健康・介護」を含む重点5分野に対するAIの社会実装を世界に先駆けて実現するとしている。

分野横断的なデータ連携の観点では、「経済財政運営と改革の基本方針2019」において、「医療・健康・介護」に関するデータを含む、行政が保有する膨大なデータのオープン化により、行政データを活用したイノベーションや次世代ヘルスケア・システムの構築等の促進を狙うデジタル・ガバメントの実現が進められている。行政手続きの100%デジタル化を進めるための法整備が既に進められており、「情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律」が2019年5月24日に可決・成立している。

更に、データ連携に伴うデジタルデータの流通は、国境を越えるようになる。このために国際的には国境を越える自由な流通や共有を進めるためのデータガバナンスが欠かせない。「統合イノベーション戦略2019」では、データ基盤などの強化に、信頼における公正なデータガバナンスと組み合わせることを通じて、世界的にモデルとなるデータ基盤を構築するとしている。国際的なデータ流通の枠組みに関して、「成長戦略フォローアップ(令和元年6月21日)」では、プライバシー・セキュリティ・知的財産権に関する信頼を確保した国際的に自由なデータ流通の促進を目指し、G20などの機会を活用し、国際的な議論をリードするとしている。また、国際的なデータ流通の枠組みの構築に先行して、国内におけるデータ収集・保管・管理・流通等について、枠組みを構築するとしている。

以上を踏まえると、医療機器産業の将来展望として、国際的なデータ流通の枠組みの構築を見据えつつ、まずは国内において、データ流通の枠組み、及び「分野間」及び「分野ごと」のデータ連携基盤が急速に整い、様々なステークホルダーが、医療・健康・介護に関するデータを含む行政データ、及び医療・健康・介護などの現場から得られた多種多様なリアルデータをオープンに共有できるようになる点が挙げられる。特に、先行して取り組まれる、「パーソナルデータ分野」内のデータ連携基盤、「パーソナルデータ分野」と他のデータ分野間のデータ連携基盤が、2022年までに本格稼働することが予想される点に注目したい。

このデータ連携・共有に当たっては、「経済財政運営と改革の基本方針2019」及び「統合イノベーション戦略2019」でも指摘されているように産業競争力強化の観点で機微技術から一般技術情報までデータの種類や構造に応じた戦略的管理、データに関するオープン・クローズ戦略が重要となってくる。

#### 4.2. 疾病・介護の予防

「経済財政運営と改革の基本方針2019」では、人生100年時代の安心の基盤は「健康」であるという認識の下、全ての世代や地域の住民を対象に、予防・健康づくりの取り組みを強化している。

一方で、「未来投資戦略2018」の「医療・健康・介護」に関するKPIのうち、メタボ人口の削減、40～74歳の健診受診率の向上に関するKPIの進捗が遅れている（「平成30年度革新的事業活動実行計画重点施策に関する報告書」）。予防・健康づくりに向けて、国民一人ひとり、特に健康無関心層の行動変容を促すことが課題となっている。「成長戦略フォローアップ（令和元年6月21日）」では、ナッジ理論などを活用して各種健診の通知に工夫を凝らし行動変容を促している。

「AI戦略2019」では、「医療・健康・介護」に対するAIの社会実装に向けて、上記課題に着目して、健康データ等を活用し、健康な段階からの早期の気づきの機会の提供等、健康維持・増進サービスの民間による提供促進の検討を2019年に開始するとしており、更に、予防・介護領域の実証事業の実施と、それを踏まえた同領域でのAIスタートアップ支援体制の構築を2020年に実施するとしている。

「経済財政運営と改革の基本方針2019」では、生活習慣病の発症や重症化のリスクのある者へ介入し、予防・健康づくりへ向けて個人の行動変容につながる取り組みの強化、歯科健診・がん健診等の受診率の向上につながる取り組みの強化を目指す。

以上を踏まえると、医療機器産業の将来展望として、予防・介護領域へ参入したAIスタートアップ企業が、健康データとAIを活用して、生活習慣病の発症や重症化のリスクのある者、及び健診の受診喚起を行うべき対象者を早期に特定し、ナッジ理論の活用など各種健診の通知の仕方に工夫を凝らし、個人の行動変容を促すシステムを構築するようになる点を挙げることができる。

#### 4.3. 社会保障 医療提供体制の効率化

「経済財政運営と改革の基本方針2019」では、働く人々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現するための「働き方改革」が進められている。具体的には、「長時間労働の是正」、「多様で柔軟な働き方の実現」、「雇用形態にかかわらない公正な待遇の確保」等の措置が講じられる。

「長時間労働の是正」では、医師の自己犠牲的な長時間労働によって支えられてきた我が国の医療も対象となり、医師の働き方改革が展開されている。医師の働き方改革は、「医師の働き方改革に関する検討会の報告書（平成31年3月28日）」を踏まえつつ、医療機関に対する勤務環境改善支援などの総合的な対策が実施されていく。この報告書では、医師の労働時間短縮を進めていくための具体的な方向性として、ICT等の技術を活用した効率化や勤務環境改善等による医療機関のマネジメント改革等が記載されている。

ICT等の技術を活用した効率化を加速させる施策は既に一部で始まっており、医師・医療従事者の勤務時間短縮に資する一定の設備（例：勤務管理ソフトウェア、AIによる音声認識ソフトウェア、遠隔診療システム等）について特別償却を可能とする「医師及び医療従事者の働き方改革の推進に係る特別償却制度」が2019年4月1日に施行されている。

以上を踏まえると、医療機器産業の将来展望として、ICT等の技術を活用した効率化を加速

させる施策による追い風を受けて、「医師・医療従事者の勤務時間を短縮する」という視点での製品開発の重要性が益々高まる点が挙げられる。

#### 4.4. 最後に

医療機器産業の視点に立った時に、「経済財政運営と改革の基本方針2019」から読み取れることの1つに、2022年に向かって「医療・健康・介護」に関する多くの施策が同時並行で進んでいくという点が挙げられる。これは、団塊の世代が75歳以上に入り始める2022年までに社会保障制度の基盤強化を進め、経済成長と財政を持続可能にする必要があるということが背景にある。

そのため、第4次産業革命の先端技術の社会実装が期待され、優先的な取り組み領域として設定されている「医療・健康・介護」をビジネス領域とする医療機器産業は、一人ひとりの人材としての質を高める「人づくり革命」及び「働き方改革」を含めた第4次産業革命の時代に対する備えを一層加速させる必要がある。

#### <参考文献一覧>

1. 令和元年第4回 経済財政諮問会議「経済財政運営と改革の基本方針2019」及び「概要」：  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2019/decision0621.html>
2. 平成30年第9回 経済財政諮問会議「経済財政運営と改革の基本方針2018」：  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2018/decision0615.html>
3. 平成29年第9回 経済財政諮問会議「経済財政運営と改革の基本方針2017」：  
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2017/decision0609.html>
4. 令和元年第29回 未来投資会議「成長戦略実行計画」：  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/ap2019.pdf>
5. 令和元年第29回 未来投資会議「成長戦略フォローアップ」：  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/fu2019.pdf>
6. 令和元年第29回 未来投資会議平成30年度革新的事業活動実行計画重点施策に関する報告書：  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/miraitoshikaigi/dai29/index.html>
7. 平成30年第18回 未来投資会議「未来投資戦略2018」：  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018\\_zentai.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018_zentai.pdf)
8. 令和元年第5回 統合イノベーション戦略推進会議「統合イノベーション戦略2019」：  
<https://www8.cao.go.jp/cstp/tougesenryaku/index.html>
9. 令和元年第5回 統合イノベーション戦略推進会議「AI戦略2019」：  
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tougou-innovation/index.html>
10. 平成30年第2回 デジタル・ガバメント閣僚会議「デジタル・ガバメント実行計画」：  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/dgov\\_actionplan.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/dgov_actionplan.pdf)
11. 平成31年第22回 医師の働き方改革に関する検討会「医師の働き方改革に関する検討会の報告書」：  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_04273.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04273.html)